

はじめに



本書は、日本で実践が広がりつつある「ポジティブ行動支援」について、理論と実践の両面を解説するガイドブックです。

Part 1 の理論ガイドでは、基礎的な理論の解説からスタートし、実践を支える心得を8つに整理し、成果を生み出すための実践的な理論が学べるよう構成しました。Part 2 の実践ガイドでは、11人の先生方に実践内容や実践方法を紹介していただきながら、実践での留意点や心構え、また実践を広げていくためのポイントについて整理しています。ポジティブ行動支援という言葉を目にするのは初めて、あるいはこれまでも実践してきたけれど、今一つその本質をつかみきれていない、そう感じる読者の皆さんへの、ポジティブな「背中の一押し」となるよう心がけて解説しました。

近年の学校現場では、子どもたちの行動面における課題が多様化し、いじめや不登校といった深刻な問題も増えています。従来の指導方法では対応しきれない状況に直面し、時には無力感や、出口の見えない疲弊を感じている先生方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

本書では、小学校・中学校・高等学校という幅広いフィールドにおける、学校・学年・学級全体といった集団支援から個別支援までのさまざまな実践を紹介し、それに対してコメントを付しています。ご自身のフィールドに応じて実践をピックアップしてお読みいただくこともいいのですが、本書の特色である多様な実践を広く俯瞰し、実践の内容やそこでの子どもと教師のかかわりを知っていただくことで、「今、目の前の子どもたちにできることは何か」の発想を豊かにすることができるでしょう。多様な実践から、ポジティブ行動支援が特定の場面や対象に限定されない、学校教育全体に応用可能な普遍的なフレームワーク（枠組み）であることを知っていただければと思います。

また、本書は決して「ポジティブ行動支援とはこうあるべき」と実践の法則化を促すものではありません。実践を執筆してくださった先生方一人一人も、子どもたちへのご自身の願いや教育観を大切にしながら、ポジティブ行動支援の枠組みを柔軟に活用し、それぞれの学校や学級の実情に合わせた実践を考えておられます。本書を参考に「ポジティブ行動支援のフレームワークに基づいて、目の前の子どもたちの成長を実現する先生方ならではの実践」を形にされ、実践を進めていかれるよう願っています。

この1冊が、読者の皆さんの教育実践をより豊かにし、子どもたちと教師にとって、笑顔あふれる学校生活を実現するための羅針盤となれば幸いです。

2026年2月

編著者 松山 康成